

別記第1号様式 (第6条関係)

倫理審査申請書

2025年11月25日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 佐藤啓太



所属 外科

職名 医師

受付番号 EP2025-130 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象	*何れかに○を付けてください。
① 実施計画	
② 出版・公表予定原稿	(発表予定日: 2026年 2月 日) 予定
2 課題名	*未定の場合も「～(仮)」として記載ください。
食道癌手術における green esophagectomy (仮) の論文および発表	
3 主任医療行為者名	
氏名: 佐藤啓太	所属: 外科 職名:
4 分担医療行為者名	
氏名:	所属: 職名:
5 医療行為等の概要	*研究の内容についてご記載ください。
深付文書参照	
6 医療行為等の対象及び実施場所	*研究対象者・データ等についてご記載ください。
深付文書参照	

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について (I~VIVは必ず記載のこと)

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

完全匿名化によるデータの取扱い

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

①オプトアウト¹

②書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③その他 ()

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

なし

IV 予測される医学上の貢献

{ 内視鏡外科学会英文誌での発表(論文)
{ 2026年度食道学会における oral presentation

V その他 (研究期間、症例数等) *未定の場合は見込みを記入すること

研究期間: 2018 - 2025

症例数等: 43症例

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院HP上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

別記第 1 号様式 (第 6 条関係)

倫 理 審 査 申 請 書

2025 年 12 月 5 日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 江藤 朋華



所 属 放射線技術課

職 名 診療放射線技師

受付番号 EP2025-133 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象 ① 実施計画 2) 出版・公表予定原稿
2 課題名 単純 CT と 4D-CTA の加算画像を用いた中大脳動脈における血栓塞栓部以遠の血管走行評価の検討 (仮)
3 主任医療行為者名 氏名：江藤 朋華 所属：放射線技術課 職名：診療放射線技師
4 分担医療行為者名 氏名：中西 健太 所属：放射線技術課 職名：診療放射線技師 氏名：岩城 健悟 所属：放射線技術課 職名：診療放射線技師
5 医療行為等の概要 急性期脳梗塞に対する機械的血栓回収療法において、迅速かつ安全に治療を行うためには、術前の治療戦略の策定が重要となる。そこで今回、単純 CT と 4D-CTA の加算画像を用いて、後方視的に中大脳動脈における血栓塞栓部以遠の血管 VR 構築を行い、術前支援画像を作成する取り組みを行う。
6 医療行為等の対象及び実施場所 対象は、2022 年 8 月から 2025 年 11 月までの間に当院で機械的血栓回収療法を施行した症例のうち、中大脳動脈 (M1・M2) 閉塞 97 例とした。画像処理装置には、SYNAPSE VINCENT (Fuji Film) を使用し、当院の CT 室にて画像解析を実施する。

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（I～VIVは必ず記載のこと）

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

- ・個人が特定される情報の開示は致しません。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

① オプトアウト¹

② 書面による同意

③ その他（ ）

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

- ・特にありません。

IV 予測される医学上の貢献

- ・機械的血栓回収療法において、術前に血栓閉塞部以遠の血管走行を把握することで、よりの確なカテーテル操作を行うことができ、手術の安全性向上に繋がる。
- ・術前に標的血管の走行を把握する事は、機械的血栓回収療法において、ワーキングアングルの決定やワイヤリング血管の選択など、治療戦略の策定に繋がる。

V その他（研究期間、症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

研究期間：2022年8月～2025年11月

症例数等：97例

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院HP上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

別記第1号様式（第6条関係）

倫理審査申請書

2025年 12月 8日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 市川 智教
所属 脳神経外科
職名 医師



※ 受付番号 ER2025-134

所属長の印	
-------	--

1 審査対象	実施計画	出版公表原稿
2 課題名	術前単純 CT および 4D-CTA の加算画像を用いた遠位走行予測	
3 主任医療行為者名	所属	職名
市川 智教	脳神経外科	医師
4 分担医療行為者名	所属	職名
宮 史卓	脳神経外科	部長
石垣 共基	脳神経外科	副部長
種村 浩	脳神経外科	副部長
小林 和人	脳神経内科	副部長
藤本 昌志	脳神経外科	副部長
中井 亨	脳神経外科	医師
中西 健太	放射線技術部	技師
5 医療行為の概要	当院で脳血栓回収術の適応となった急性期脳主幹動脈閉塞症例の全例が対象。VINCENT を用いて、術前に施行した単純 CT・造影 CT の加算画像を作成し、これを CPR 解析・VR 画像作成を行ない、閉塞部よりも遠位の血管走行を術前に評価する。この予測方法が、実際の血管走行と一致しているのか、加えて手技の安全性や治療予後に寄与しているのかなどを集積・検討を行なう。またこの予測方法からの派生として、予測血栓量・予測血栓長・予測灌流範囲等に発展させ、脳血栓回収術における術前支援となることを目的とする。	

6 医療行為の対象及び実施場所

当院で治療を行った全ての急性期脳主幹動脈閉塞症例を対象とする。臨床所見は紙カルテや電子カルテを参照し、画像所見・手術所見は保管されている全てのものを対象とする。

注意事項 1 審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。

2 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

3 ※ 印は記入しないこと。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（I～IVは必ず記載のこと）

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

個人情報特定されないよう、全てのデータは匿名化を行い、学会発表や論文発表を行う。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

① オプトアウト

② 書面による同意

③ その他（ ）

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

個人情報が匿名化されるため、患者に対する不利益が生じることはなく、また危険性はないと考えられる。

IV 予測される医学上の貢献

術前に閉塞血管以遠の血管走行や血栓量等が把握できることで、実際の手技の安全性や、デバイスの選択などに大きく寄与し、治療予後に影響を与えられられる。

V その他（研究期間、症例数等）

研究期間：単純 CT の thin slice 撮影が開始された 2022 年～2030 年程度まで

症例数等：年間 50-60 件程度の治療件数のため、400-500 件程度になる見込み

別記第1号様式A (第6条関係)

倫理審査申請書

2025年12月10日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 加藤 真也 
所属 医療技術部
職名 臨床検査技師

受付番号 FR2025-137 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象 症例報告 (発表予定日 2026.2.13) 第37回 日本臨床微生物学会
2 課題名 non-O1/non-O139 <i>Vibrio cholerae</i> による急性胆管炎、肝膿瘍
3 症例報告実施者 氏名： 加藤 真也 所属： 医療技術部 職名： 臨床検査技師
4 症例報告の概要 non-O1/non-O139 <i>Vibrio cholerae</i> による菌血症合併胆管炎は極めて稀で、質量分析や自動同定装置のみでは菌名確定が困難な場合がある。本症例では免疫血清検査結果を踏まえて臨床医とコミュニケーションをとったことで、効率的に微生物検査結果を臨床適用させることができた。
5 医療行為における医学倫理的配慮について (I~VIVは必ず記載のこと) I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護 個人名などは記載せず、個人を特定出来ないように実施。 II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法 ※いずれかを○で囲んでください。 ①オプトアウト ②書面による同意 *同意書のひな型を添付ください。 ③その他 () III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性 個人への不利益並びに危険性は生じません。 IV 予測される医学上の貢献 本症例を報告することで、他病院で同様の症例がでた場合に、より効率的に微生物検査結果を臨床適用させ、適正な診療に結びつけられる。 V その他 (症例数等) 症例数等：1症例

注意事項 審査対象となる症例報告原稿のコピーを添付して下さい。

別記第1号様式（第6条関係）

倫理審査申請書

2025年12月9日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 野口 大介



所属 外科

職名 副部長

受付番号 F122025-138 (※事務局で記入)

所属長の印	
-------	--

1 審査対象 ① 実施計画 2) 出版・公表予定原稿
2 課題名 胆嚢摘出術の治療成績に関する多機関共同観察研究
3 主任医療行為者名 氏名：野口 大介 所属：外科 職名：副部長
4 分担医療行為者名 氏名：高橋 幸二 所属：外科 職名：部長
5 医療行為等の概要 胆嚢摘出術における治療前後の患者の状態と術中所見を比較し、術後成績との関連を検討することを目的とした多機関共同観察研究。施設ごとの患者背景や治療方針のばらつきを考慮することで、より実臨床に即した結果を得るため多機関共同で行う。本研究は、「個人情報保護」、「ヘルシンキ宣言」、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、代表研究機関（三重大学）において一括審査を行い、三重大学倫理審査委員会にて承認されている。
6 医療行為等の対象及び実施場所 2012年から2035年までの期間に、三重大学と共同研究機関において、胆嚢摘出術を施行された患者（開腹手術、腹腔鏡手術は問わない）を対象とする。背景、周術期因子、治療（手術）内容、に対し、①手術成績（手術時間、出血量、臓器損傷の有無など）と②術後成績（合併症や在院期間など）との関係を検討する。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（I～Vは必ず記載のこと）

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

研究に関わる関係者は、研究対象者の個人情報保護について、適用される法令、条例を遵守する。また関係者は、研究対象者の個人情報およびプライバシー保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を正当な理由なく漏らしてはいけない。関係者がその職を退いた後も同様とする。データは、氏名を研究対象者識別コードに変更し個人情報が特定できないようにした上で管理する。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

① オプトアウト

② 書面による同意

③ その他（ ）

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

本研究は対象患者の既存試料（治療に関わる情報）を用いて検討するものであり、実際の臨床経過や治療効果などに影響を及ぼすような有害事象は起こらない。予想されるリスクとしては個人情報の漏洩がある。

IV 予測される医学上の貢献

本研究により、急性胆嚢炎に代表される、胆嚢摘出術を要する疾患に対するより適切な治療戦略の構築が可能になると予想される。

V その他（研究期間、症例数等）

研究期間：許可日から 2035 年 7 月 31 日（期間延長あり）

対象期間：2012 年 1 月 1 日から 2035 年 3 月 31 日

症例数等：研究全体の目標症例数は 2000 例。当院の目標症例数は 500 例。

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

臨床研究に関する情報公開（一般向け）
「胆嚢摘出術の治療成績に関する多機関共同観察研究」へご協力をお願い

—2012年1月1日-2035年3月31日までに胆嚢摘出術を受けられた方へ—

研究機関名：三重大学医学部附属病院

研究責任者：三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 教授 水野修吾

研究分担者：三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 リサーチアソシエイト 野口大介

三重大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科 講師 早崎碧泉

三重大学医学部附属病院 医療安全管理部 講師 飯澤 祐介

三重大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科 助教 伊藤 貴洋

三重大学医学部附属病院 医療情報管理部 講師 藤井 武宏

三重大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科 講師 種村 彰洋

三重大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科 講師 村田 泰洋

三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 准教授 栗山 直久

三重大学医学部附属病院 災害対策推進・教育センター 准教授 岸和田 昌之

個人情報管理者：三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 非常勤職員 久保田恵子

1. 研究の概要

1) 研究の意義：この研究は、胆嚢摘出術における治療前の状態と治療後の状態を比較し、治療成績について検討するものです。

2) 研究の目的：胆嚢摘出術は、症例によって難易度が大きく異なる手術で、難しい症例では、手術時間が長くなり出血量も増えるため、合併症や入院期間の延長が予想されます。本研究では胆嚢摘出術を受けた患者様において、より最適な周術期管理や手術方法などの確立のため、様々なリスク因子、予後因子、治療成績について明らかにしていくことを目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者：当院にて2012年1月1日より2035年3月31日までに胆嚢摘出術を受けられた方（手術時18歳以上の成人であった方）が対象となります。2000名程度の方が対象となる予定です。

2) 研究期間：2024年9月11日（許可日）より2035年7月31日まで

3) 研究方法：2012年1月1日より2035年3月31日までに、三重大学医学部附属病院とその他の研究参加施設において胆嚢摘出術を受けた患者様を研究対象として連続して登録し、5)に記載した情報を電子カルテから収集します。それらの情報を比較解析して、胆嚢摘出術のより最適な手術方法や周術期管理などを検討します。

4) 使用する試料の項目：該当なし

5) 使用する情報の項目：登録時、診断時、手術後に以下に記載する情報を収集する予定です。

- ・ 一般身体所見、患者背景、自覚症状、血液検査、凝固機能検査、生化学検査、画像検査所見、処方内容、治療因子、術後合併症、後遺症、術後侵襲的処置、切除標本の病理組織所見、処方内容、治療内容、予後

6) 利用又は提供を開始する予定日：2024年9月11日（許可日）より

7) 情報の保存：研究対象者の個人情報は個人情報を特定できないように加工を行い、その個人情報を復元できる情報（いわゆる対応表）は個人情報管理者が保管します。個人情報を特定できないように加工した情報は電子情報として保存します。この研究で得られたデータは適切に保管し、研究終了後5年または研究発表後5年のいずれか遅い日まで保管した後、個人情報が特定できないまま廃棄します。

また、保管される既存試料・情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究の研究計画書等を倫理審査委員会に付議し、承認されてから利用します。また、その際は情報公開文書を作成し、当院のホームページ「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開」(<https://mie.bvits.com/rinri/publish.aspx>)で公開したうえで、研究対象者が研究参加を拒否する機会を保障します。他機関の研究者に既存試料・情報を提供する場合は、対応表は提供せず、個人の識別ができないよう措置を行います。提供先が外国の研究機関や外国企業の場合には、その国でのプライバシー保護規定が定められていることを確認した上で、患者さん個人を特定できる情報を含まない形にして提供します。

また、近年、データの正確性を見るために、論文の出版社からデータの提出を求められることがあります。また、全世界の研究者が、論文のデータにアクセスできるようにし、研究を行うことがあります（データシェアリングといいます。）。両者とも、個人を特定できなくした情報しか提供しませんので、これにより個人を特定されることはありません。

8) 情報の保護：

研究に関わる関係者は、研究対象者の個人情報保護について、適用される法令、条例を遵守します。また、関係者は、研究対象者の個人情報およびプライバシー保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を漏らすことはありません。試料・情報の管理の責任者は研究責任者です。

9) 倫理審査：

三重大学医学部附属病院または医学部・医学系研究科内で行われる全ての臨床研究は、研究に参加される方の人権や安全性の保護および科学性について問題がないかを三重大学医学部附属病院 医学系研究倫理審査委員会にて審査され、その意見をもとに病院長または研究科長が許可したもののみ実施されます。本研究は、三重大学医学部附属病院 医学系研究倫理審査委員会において審査を受け、病院長または研究科長の許可を得ております。

10) 研究資金源及び利益相反：

この研究における経費は、研究責任者が所属する三重大学肝胆膵・移植外科の奨学寄附金(企業以外)で賄われます。よって、ご参加いただくにあたりあなたの費用負担が通常の診療より増えることはありません。なお、ご参加いただくにあたっての謝金などのお支払いもありません。

また、この研究の研究責任者と研究分担者は、所属機関の利益相反審査委員会の承認を受けており、関連する企業や団体などと研究の信頼性を損ねるような利害関係を有していないことが確認されております。

11) 研究計画書および個人情報の開示：

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についてお分かりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。この研究はあなたのデータを個人情報とわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

12) 研究への使用を希望されない場合：

あなたの試料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にも不利益が生じることはありません。あなたが研究を拒否された場合、これまで取得したデータは全て削除します。ただし、解析中もしくは論文執筆中のデータ、また、既に学会や論文で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。拒否される場合は、お早めにご連絡をお願い致します。

13) 代表研究機関および共同研究機関

- ・ 代表研究機関名・研究代表者：三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 教授 水野修吾
- ・ 共同研究機関名・研究責任者：尾鷲総合病院 外科 部長 小倉正臣
- ・ 共同研究機関名・研究責任者：紀南病院 院長 加藤 弘幸
- ・ 共同研究機関名・研究責任者：伊勢赤十字病院 外科 部長 高橋 幸二

<問い合わせ・連絡先>

所属：三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 リサーチアソシエイト 野口大介
電話：059-232-1111（平日：9時30分～17時00分） ファックス：059-232-8095

別記第1号様式(第6条関係)

倫理審査申請書

2025年12月17日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 高村 武志 
所属 循環器内科
職名 第二循環器科部長

受付番号 EP2025-140 (※事務局で記入)

所属長の印 

1 審査対象 1) 実施計画 レジストリデータを用いた後向き研究 2) 出版・公表予定原稿 2026年：欧州心臓病学会
2 課題名 左主幹部急性冠症候群に対する予後不良因子の検討
3 主任医療行為者名 氏名：高村武志 所属：循環器内科 職名：部長
4 分担医療行為者名 氏名：坂口慎太郎 所属：循環器内科 職名：医員
5 医療行為等の概要 MIE ACS Registryにおける2013～2025年に行った左主幹部急性冠症候群に対する予後に影響しうる項目の検討
6 医療行為等の対象及び実施場所 該当する患者に対する追加のデータ収集を行い、三重大学医学部附属病院で一括して解析検討する

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（I～Vは必ず記載のこと）

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

個人情報削除したアンギオデータの提出。

個人情報漏洩のリスクはありません。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

オプトアウト

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

なし

IV 予測される医学上の貢献

左主幹部急性冠症候群の予後は依然として不良であるが、今回の研究を通じて予後不良因子を検出し、学会や論文発表することで医療に貢献する

V その他（研究期間、症例数等）

2013年～2025年